

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年3月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174800449
法人名	社会福祉法人 秩父福祉会
事業所名	グループホームひなた
所在地	〒369-1505 埼玉県秩父市吉田久長193 (電話) 0494-72-6061

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年3月3日

## 【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算8人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,200円				

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	4 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.6 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	金子医院、勅使河原歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、豊かな自然環境の中で、地域の介護サービスの拠点となるグループホームである。高齢者サポートセンターの中に、ヘルパーステーション、デイサービスセンター、生活支援ハウス、グループホームがあり、また特別養護老人ホームが隣接されており、各種の機能を連携して地域の介護を支えている。また、地域密着型である当ホームの利用者、職員が地元の人であることから、職員と利用者との関係がとてよい。共用スペースの天井は高く、ゆったりとした空間を作っている。平屋建てで中庭があり、居室からは自由に外に出ることもできる。廊下の壁には、行事の写真や書道の作品が掲示され、落ち着いた雰囲気である。また、職員が自分の畑で作った季節の野菜を食材に使用して調理しており、季節感を味わえるように配慮がなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では、研修への積極的な参加、介護計画作成における利用者の課題の共有化と内容の具体性、入浴を楽しめるような支援の3項目が改善項目として挙げられている。外部評価の改善項目については、職員会議で話し合い、職員全員で改善に取り組んでいる。新人研修には参加するようにしており、ケース会議において介護計画の内容の共有化を図り、可能な範囲で入浴を楽しめるように支援している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員に自己評価票をコピーして配布し、各自で書ける範囲で記入してもらっている。それを管理者がとりまとめて自己評価票を作成しているため、自己評価に対する理解があり、前向きに検討し改善していこうとする意欲がみられる。ホーム便りの内容や外出への支援等さらに向上を目指している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3か月に1回実施され、メンバーは地区の民生委員、市の福祉課長、利用者代表、利用者家族の代表、学識経験者等で構成されている。会議では、利用者の状況等を報告し、インフルエンザ対策や防災計画等について検討しており、地域密着型のホームとして、メンバーからの意見をサービスの向上に具体的に活かしていこうとしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情担当者が明確になっており、家族からの意見や苦情を取り入れる体制ができています。また、家族会も組織されており、家族の代表が運営推進会議のメンバーにもなっているため、意見を運営に反映させることができるが、ホーム便りの発行や利用者の生活状況の報告を行っているので、家族からの意見や苦情等はあまりない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>職員も利用者も地元の人が多く、地域に密着しているホームである。日常的に散歩を行っており、近隣の人たちとの交流を深めている。また、地域の人たちと一緒に、道路の花植えや小川の草刈り等、ホーム周辺の美化に努めている。その他、近所の習字の先生にボランティアとして来てもらい、習字教室を開いたり、中庭を地域の人たちが利用できるように開放したりすることで、地域との連携を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念を基に、高齢者サポートセンターとしての役割を考えて、地域に根ざしたホームの特性を活かした目標を作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化としては、朝夕の申し送りの時に理念を唱和しており、日常的に理念を確認しながら実践に取り組んでいる。また、職員会議の時には、理念についての話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に根ざしたホームであり、地域の人たちと一緒に道路の花植えや小川の草刈りを行っている。地域の一員として、散歩などでは地元の人たちとの交流を深めるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、事前に職員に自己評価票を配布し各自で記入をしてもらったものを管理者がとりまとめて作成している。職員全員が評価の意義を理解しており、外部評価の改善項目についても、職員会議で話し合いを行い、改善に積極的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回の割合で実施され、メンバーは地区の民生委員や市の職員、利用者代表、利用者家族代表、ホーム職員等で構成されている。会議では、利用者の状況や行事の報告を行うとともに、インフルエンザ対策や防災計画等について検討している。なお、運営推進会議での内容は、職員会議で報告し運営に反映させるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして市民生活課長に来てもらい意見を聞く以外にも、介護保険の認定調査員からも意見を聞き、市との連携を図りながらケアサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを3か月に1回の割合で家族に送付しており、利用者の日常的な生活状況については担当者が実績報告書を作成している。また、家族の面会時には、日頃の暮らしぶりについて伝えるように努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者が明確に掲示されており、玄関には意見箱が置かれている。また、権利擁護や苦情申し立てのパンフレットが掲示されており、意見や苦情が言いやすい環境を作っている。意見や苦情については、ノートに記録し、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職率が低く、法人内での異動にも配慮されている。また、ホーム開設時からの職員もおり、利用者との馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対しては各種研修会への参加を計画的に行うようにしているが、職員体制の関係もあり外部研修への参加は少ない。職員会議の時にインフルエンザへの対応等の勉強会は実施している。		介護の専門性が求められていることから、認知症介護に関する研修会等の外部研修へ、職員が偏りなく積極的に参加できることが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との連絡会を立ち上げる準備をしており、ネットワークづくりや情報交換を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には見学をしてもらい、本人が安心して利用できるように配慮している。同じ建物内には高齢者サポートセンターとしてデイサービスやホームヘルプサービスがあるので、継続的にホームへ入居することもでき、馴染みながらの利用を支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員、利用者は地元の人が多く、職員は利用者から地元の昔のことを教えてもらったり、会話の中で共通の話題もあり、共に支えあう関係作りに努めている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員と利用者の関係が良好であり、職員は利用者の思いを理解するように努めている。利用者の立場に立って一人ひとりの意向を受け止め、家族と相談しながら対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成の過程では、利用者及び家族の意向を汲み取るように配慮し、アセスメントシートに関しても家族が見ても理解できるように工夫している。また、職員会議で利用者全員の状況について報告し、介護計画についての目標や個々の対応を確認しながら取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状況の変化に応じて介護計画の見直しをしており、利用者及び家族の意向を取り入れながら行っている。利用者の状態の変化が大きい場合には、要介護度の変更申請も行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院や送迎等の必要な支援を臨機応変に行っている。また、希望に応じて家族も宿泊できるように支援するなど、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医への診察を支援しており、家族と協力して通院も行っている。ホームの協力病院の医師による訪問診療も行っており、医療との連携を密にしながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	要介護4の利用者が2人おり、今後は重度化した場合の検討が必要な状況にある。現在、隣接している同一法人の特別養護老人ホームへの入所も含めて検討している段階である。		利用者の重度化に対してホームとしての方針を文章化して明確にし、家族との間で共通の理解が持てるようにすることが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮しながら対応している。また、利用者の個人情報についても、個人情報開示の同意を得ており、取り扱いが適切に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側から日課を押しつけるようなことはなく、利用者の体調に合わせて、その日の過ごし方を利用者のペースで決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者へ声をかけながら、テーブル拭きやおしぼり配り等を利用者と一緒に行っている。食事は地元の食材を使って調理されており、季節感を味わえるように盛り付けも工夫されている。職員も利用者と同じテーブルを囲み、食事を共にして楽しく過ごしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には土曜日を除き、特別な行事がなければ毎日、午後に入浴できるように支援している。職員はできるだけ利用者の希望にそえるように可能な範囲で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態に応じて、ゴマすりやおしぼりたたみ等の役割をもってもらい生活意欲を引き出すように支援している。利用者の中には農家の方もおり、草取りや畑の手入れ、野菜づくりを手伝ってもらったりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然環境に恵まれているので、天気の良い日には利用者の希望に応じて散歩を行っている。梅や桜などの花見に行ったり、外食の日を設けるなど、できるだけ外に出る機会を作り、外出の支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーが設置されチャイムが鳴る仕組みになっており施錠していない。鍵をかけないケアを実践しており、居室から中庭に自由に出ることも出来る。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画に基づいて、消防署の立会いのもとに避難・誘導・消火訓練を行っている。同一敷地内の高齢者サポートセンター及び隣接の特別養護老人ホームとも合同で総合的に訓練を行っており、連携して協力・支援体制を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事や水分の摂取状況をこまめにチェックして記録しており、利用者の状況を把握して情報を共有するように努めている。また、栄養バランスも考えながら、利用者一人ひとりの状況に合わせて健康面の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には、利用者に馴染みの地元の祭りや花のポスターが掲示されており、食堂には季節感を味わえるような飾り付けがなされている。静かな空間でゆったりとくつろげる共用スペースを作っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家で使っていた椅子等の馴染みの家具や家族との懐かしい写真が飾ってある。利用者及び家族と相談して使い慣れた物等が持ち込まれ、中には畳を敷いてある居室もあり、家族が泊まれるように工夫している。		